

来賓挨拶

沼田 正俊（林野庁次長）

本日は、森林総合研究所 REDD 研究開発センターによる公開セミナーがこのように盛大に開催されることを、心からお喜び申し上げます。また、私ども林野庁は森林・林業行政を担っていますが、皆さまには日ごろから格別のご支援、ご協力を賜わり、あらためて御礼申し上げます。

世界の森林は陸地全体の 3 割を占めますが、毎年 520 万 ha、日本国土の約 7 分の 1 に相当する森林が減少しています。森林の保全の問題、さらには地球環境の保全という観点から、特に途上国における森林減少への関心が高まってきています。また、温暖化の面から見ると、温暖化ガス総排出量の約 2 割が途上国をはじめとする森林の減少によるものとされています。その意味で、林野庁としても大きな関心を持って事に臨んでいます。

温暖化の交渉の関係では、昨年のカンクン合意で、途上国の森林減少・劣化対策等と先進国の支援の枠組が、COP 決定の中に組み込まれています。また、今年 11 月末から南アフリカのダーバンで COP17 が開かれます。いろいろな意味で関心が高まっており、私どもも積極的に貢献していきたいと考えています。

REDD や REDD プラスに対応していくためには、現場レベルでの経験を通じて技術的課題を解決していくことが重要です。さまざまな知見を集積し、研究や実践の成果を結び付けていくことが、ますます重要になってくるでしょう。本日のサブタイトルである「国際交渉・現場と研究開発をつなぐ」ということを、きちんと行う必要があります。

林野庁としても、これまで途上国に職員を専門家として派遣し、いろいろな活動をしてきました。今後も、このような実践的な取組ができる技術者の養成や、関係する皆さまの取組の支援を心掛けていきたいと思えます。

今年が国際森林年です。そして、来年はリオ+20²の年に当たります。地球環境の問題を含め、さまざまな課題がありますが、ご臨席の皆さまのご支援をいただきながら、少しでも地球全体の森林保全が図られるように努力してまいりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

² 国連持続可能な開発会議 (<http://www.uncsd2012.org/rio20/>)